

令和5年度 金沢型学習スタイル実践推進事業 報告書

三和小学校	重点課題推進校	学習評価の充実
-------	---------	---------

1 研究の重点と具体的な取組

(1) 重点1 児童のゴールの姿の明確化

児童のゴールの姿（B規準）を具体的に設定し、つけたい力を明確にした授業づくりを行う。まとめ・ふりかえり等の児童の記述を中心に評価を行い、授業改善につなげる。

(2) 重点2 考えを深め、ねらいに迫るための工夫

授業の後半を深めの場面と設定し、発問や考えを補う資料の提示、ICTの効果的な活用等を行い、児童自身が確かな学びを自覚できるようにする。

2 取組の検証

児童・教員アンケート「よくあてはまる」「あてはまる」の割合

検証の項目		後期	前期比
児童	授業の最後にまとめやふりかえりを書いている	95%	+3%
	授業の内容が分かる	90%	+2%
教員	児童がねらいに達する姿を明確にし、そのための手立てを講じている	92%	+8%

- ・児童アンケート「授業の最後にまとめやふりかえりを書いている」で「よくあてはまる」と回答した児童の割合が前期と比べて8%上昇した。
- ・児童アンケート「授業の内容が分かる」で「よくあてはまる」と回答した高学年の児童の割合が前期と比べて10～16%上昇した。
- ・教員アンケート「児童がねらいに達する姿を明確にし、そのための手立てを講じている」で「よくあてはまる」と回答した教員の割合が前期と比べて16%上昇した。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・児童が自分の言葉でまとめ、ふりかえりを書く場面を設定したことで児童の書く力が向上し、書く量も増えてきた。
- ・児童のゴールの姿をB評価と設定し、その具体的な姿を設定することで、どの活動でどのような思考をさせることをめざすのか明確にすることができた。
- ・B評価へと引き上げるために、板書の工夫や意図的な交流活動の設定などC評価の児童への支援を意識した授業づくりができるようになってきた。
- ・まとめ、ふりかえりやその時間の板書等を学年会で交流することで、指導方法を共有したり、授業改善について協議したりすることができた。

(2) 課題

- ・児童の記述から授業後半で学習評価をするためには、タイムマネジメントを行う必要がある。
- ・ねらいに応じた学習評価を行うために、まとめ、ふり返りをどのように書かせたらよいか見取りの精度が課題である。
- ・授業の中でC評価をB評価へと引き上げるためにどのような手立てがあるのか更に研究していく必要がある。また、課題設定や板書、深めの発問の質の向上が求められる。